北里学級だよりNo.11

たんぽぽ

2017. 3. 1.

きみの作品が みんなを笑顔にしているんだよ

写真は北里学級の掲示板。入院中の子どもたちの作品や、設置している双葉小学校と麻溝台中学校の学校だよりなどが掲示されています。約３年前、新病院が完成し、北里学級も現在の場所に移った時、「こどもたちの作品の掲示に使ってください」と、病院スタッフの方のご配慮で設置されました。

現在は子どもたちの作品に加えて、内閣府主催の「心の輪を広げる体験作文」の優秀作品なども掲示しています。掲示板の前に立ち止まっている方は、入院川柳を見て「そうだろうね、わかるわかる」と笑顔でうなずいている方や、いつまでも掲示板の前に立ち止まったまま、ずっと一人で何かを考えている方もいます。中には「感動しました」「元気をもらいました」とお手紙をくださる方もいます。

入院している子どもたちは、「自分は誰かの役に立っている」ということを実感するチャンスがなかなかありません。「そんなことはない、きみの作品が、きみがここで頑張っていることが、こんなにたくさんの人に勇気や笑顔をプレゼントしているんだよ」と、私たち教師はいつも伝えています。

「お寿司食べたいなあ」「じゃあ作っちゃおう」

入院中の子どもたちは、辛い治療や痛い注射などはもちろん、自由がない、友だちに会えない、好きなものが食べられない、など多くのストレスとたたかっています。

写真は、北里学級小学部の授業の様子。思い思いに紙粘土を使って好きなものを作っていますが、「退院したら食べたいもの」を作った子がいました。

「お寿司食べたいなあ…」「じゃあ作っちゃおうか！」こんな会話で始まった紙粘土のお寿司づくり。大好物のネタのほかに、箸や箸置き、しょうゆにワサビ、お茶まで用意されています。

好きなものを食べたい、という自然な気持ちや、もう入院生活は嫌だ、などのマイナスの感情に蓋をせず、まず、ありのままに受け止めることによって、自分の現在の状況に対して冷静になれるのが子どもの心理です。北里学級では正直な気持ちを表に出させることが大切だと考えています。

市内の病弱学級の先生方が一堂に

去る２月 22 日、相模原市内で病気を抱えながら学校に通学している子どもたちのための、「病弱特別支援学級」の先生方が北里学級に集まり、情報交換や、病気の子どもを支えていく上での様々な課題について話し合いが行われました。NICU 主任の釼持　学先生を講師に迎え、病院長の海野信也先生もサプライズで参加されるなど充実した研究会になりました。

この会を主催する天野和弘先生（大野南中学校長）は「病気の子どもに対しておこなわれる教育のことは、まだまだ知らない人が多い。今後は、まず多くの医療関係者や教育関係者に知ってもらうことから始める必要がある」と述べ、大変意義のある研究会となりました。